

## 可搬型簡易気象装置を用いた安全管理について

工 事 名 令和6・7年度高田管内道路情報表示設備更新工事  
 工事場所 高田河川国道事務所管内  
 会 社 名 株式会社 イートラスト  
 発 表 者 関谷 佑太

### 1 はじめに

本工事は、施工箇所が国道と隣接するため、気象観測は簡易的な計測器に制限され、現場の気象を常時監視することが困難と予測されます。そこで可搬型の簡易気象を使用することで、常時気象状況を数値で確認することとします。

### 2 概要

近年、異常気象により突然の豪雨や強風に見舞われることが多くなってきています。作業前及び作業中に気象情報を収集しながら作業の安全管理を行っていましたが、実際には施工場所における気象情報を数値化して常時管理することは困難となっていました。

これらの問題点を解消するため、可搬型簡易気象観測装置を現場に設置します(写真-1)。



写真-1

### 3 方法

作業前にインターネット・ラジオ等で気象情報を確認後、現地にて可搬型簡易気象計を設置し常時気象状況を確認できる体制をとりました。気象観測装置(写真-2)は100V電源を使用せずに、太陽光パネルとバッテリーで動作し、観測したデータは低出力無線で監視モニター(写真-3)にデータを常に送ります。

測定できる気象情報は、気温・湿度・風速・風向・雨量・気圧の6項目です。



写真-2



写真-3

#### 4 結果

常時気象情報を行うことで、特に雨量や風速の安全管理に有用でした。また、監視モニターは、作業中止基準の数値を入力設定することでアラームによる通知も行なえ作業中止判断も容易に行えます。

#### 5 あとがき

情報板設置時のクレーン作業時には、安全管理面で有用です。主に作業中止判断の明確化で活用し、体感温度も表示できる機能があるので熱中症の目安としても使用できると思います。